

オオヒキヨモギ	<i>Siphonostegia laeta</i> S.Moore	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		ゴマノハグサ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。	写真(加藤範夫)
形態の特徴	茎の高さ30-70cmになる1年草。葉は卵形で、大きな裂片に裂ける。茎・葉ともに開出する腺毛が密生する。花期は8-9月。上部の葉腋ごとに、灰黄色・長さ2-2.2cmの唇形花を1個ずつつける。蒴果は狭長楕円形で先が尖る。	
生態的特徴	丘陵帯の低地のやや乾いた草地に生える。	
分布状況	関東地方、中京地方、近畿地方、中国地方・四国の瀬戸内側、中国(中南部)に分布する。県内では県南の東部及び中部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の東部及び中部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良